

耳下腺脂肪沈着：メタボリック症候群の一臨床徴候<sup>§</sup>

## Lipid Infiltration in the Parotid Glands: A Clinical Manifestation of Metabolic Syndrome

飛田あゆみ 赤星正純 高木幸則 今泉美彩 世羅至子 早田みどり 前田蓮十  
中島栄二 井田弘明 川上 純 中村 卓 江口勝美

## 要約

**背景** 耳下腺脂肪沈着(LIPG)の臨床的特徴はこれまであまり検討されていない。原爆被爆者の放射線後障害の追跡調査の中でLIPGの臨床所見を検討する機会を得た。

**方法** 長崎の原爆被爆者992人を対象に、涙液および唾液分泌量測定、身体計測、生化学検査、腹部超音波検査を2002年から2004年にかけて行った。涙液または唾液分泌が減少していた465人のうち、176人が唾液腺核磁気共鳴画像(MRI)検査を受けた。

**結果** 唾液腺MRI検査を受けた176人の対象者のうち、53人にLIPGを認めた。LIPG症例では、LIPGのない対象者と比べて女性が多く、また脂肪肝が多かった。年齢と性を調整した回帰分析では、LIPG症例で、肥満指数(BMI)、低比重リポ蛋白質コレステロール、中性脂肪、ヘモグロビンA1c、およびC反応性蛋白質が高く、一方、高比重リポ蛋白質コレステロールおよびアディポネクチンが低かった。多変量ロジスティック回帰分析では、BMIと脂肪肝が放射線被曝線量と独立してLIPGと関連していた。

**結論** LIPGは、BMI、脂肪肝および冠危険因子と関連しており、メタボリック症候群の臨床徴候の一つであった。

<sup>§</sup> 本報告書は *Exp Clin Endocrinol Diabetes* 2012; 120(2):110-5 (doi:10.1055/s-0031-1291315) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が出版社(Thieme Publishers)の許可を得て作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。